

調査・研修等計画届出書

令和7年1月20日

瀬戸市議会議長 様

議員名 颯田 季央

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和7年1月30日（1日）	
調査先・研修名	国土交通省にて 「駅エレベーター設置に係るバリアフリー法について」	
会場名（会場所在地）	衆議院第二会館（東京都千代田区永田町2丁目2-1）	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	1月30日 10時30分～12時 国土交通省 住宅局市街地建築課 現在瀬戸市内の愛知環状鉄道駅の中にエレベーター未設置の駅がある。事業者の財政上の理由で今後もバリアフリーが叶わないことは市民にとって有益でない為、実現に向けて国土交通省の意向を調査研修。	
議長名の依頼	要 ・ 不要	依頼先（名称）
同行者名		

※行程表を添付してください。

調 査 ・ 研 修 等 報 告 書

令和 7 年 2 月 1 2 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 颯田 季央

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 7 年 1 月 3 0 日（木）
調査先・研修名	駅エレベーター設置にかかるバリアフリー法について
会場名（会場所在地）	衆議院第二会館（東京都千代田区永田町 2 丁目 1－2）
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	1 月 30 日 10 時 30 分～12 時 国土交通省 住宅局市街地建築課 現在瀬戸市内の愛知環状鉄道駅の中にエレベーター未設置の駅がある。事業者の財政上の理由で今後もバリアフリーが叶わないことは市民にとって有益でない為、実現に向けて国土交通省の意向を調査研修。
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
瀬戸市にある愛知環状鉄道において、エレベーターが設置されていない駅は 2 駅（中水野・瀬戸口）ある。この 2 駅においてバリアフリー化を推進するにあたり、エレベーター設置が課題となっている。 国土交通省は鉄道駅のバリアフリー化等の推進を行う方針を示しており、補助制度を設けている。利用者が 3000 人/日以上のある駅は又は、バリアフリー基本構想を作成し 2000 人/日以上の鉄道駅は原則バリアフリー化を推進していくとしている。さらに、地方における重点化対象事業として「鉄道駅総合改善事業費補助」の制度があり、令和 4 年度からバリアフリー基本構想に位置付けられた駅は、国からの補助率が 1/3 から 1/2 と引き上げられた。これにより、鉄道事業者と地方自治体の負担が軽減され、より一層バリアフリーに取り組みやすい状況が生まれ、段差解消駅の対象駅の進捗状況は令和 5 年度末で 3,331/3546 駅（約 94%達成）している。 本市の 2 駅は対象となる駅ではあるが、鉄道事業者の理解や資金面の課題があり解決する必	

要がある。特に、瀬戸口駅は立地・構造上の課題があるため重点的に研修と議論を行った。

現状の課題

(1) 南側からのみしか利用できないことに対する利用者負担

現在、瀬戸口駅は南側にのみ改札があり、北側住民は階段を利用し迂回しなければならないという状況です。特に以下のような利用者にとって大きな負担となっています。

- ・ 高齢者・障がい者：階段の昇降が困難
- ・ ベビーカー利用者・子育て世帯：移動の負担が大きい
- ・ 重い荷物を持つ方：駅の利用が不便

(2) エレベーター設置にかかる費用負担

バリアフリー化の一環としてエレベーターを設置する場合、以下の課題が挙げられます。

- ・ 北側の土地とホーム部分、南側の入口に高低差がある。
- ・ 島式ホーム構造のため、線路横からのエレベーター設置が困難であり、高架部分に新たな構造物を追加する必要がある。
- ・ 鉄道会社（第三セクター）は財政的な余裕がなく、単独での設置が困難。

(3) 計画の具体化と費用分担の不透明性

- ・ 瀬戸口駅のバリアフリー化に関する具体的な計画は未だ定まっておらず、特に北側からのアクセスを考慮した動線の設計が求められている。
- ・ エレベーター設置や改札の新設に関する具体的な計画と予算の詳細が不明であり、これらのタスクを進めるための詳細な計画が必要である。
- ・ 設置後の維持管理費用の補助制度はないので、持続的な予算計画が必要である。
- ・ 住民の理解・多くの人の意見と同意を有られるよう協議会の設置が必要である。

調査先（主な質疑・応答内容）／研修（受講後の感想）

質疑・応答踏まえたまとめ

1. 北側改札口設置の必要性とメリット

(1) 利用者の利便性向上

- ・ 北側改札の設置により、高低差が少なくなり、住民の移動距離・時間が短縮できる
- ・ 高齢者や障がい者にとってアクセスしやすい環境が実現する。
- ・ ICカード対応の無人改札を導入することで、人件費の負担を抑えることが可能である。

(2) 駅周辺のまちづくり促進

- ・ エレベーターや駅単体の課題として考えるのではなく、バリアフリーと利便性の向上が地域にどのようなメリットを与えるのか、また、駅を核としたまちづくり全体の視点から考えると大きなメリットとなりえる
- ・ 北側の土地活用を進め、居住環境や商業施設の整備が期待できる。
- ・ マンション・学習スペースの整備など、新たな住民や事業者の誘致が可能となる。
- ・ 地域活性化につながり、鉄道利用者の増加も期待できる。

(3) 費用対効果の向上

- ・ 南側のみのエレベーター設置と比較し、北側改札の設置を含めた方が長期的な費用対効果が高いことが推察される。
- ・ 国や自治体の補助金を活用することで、鉄道事業者の負担を軽減できる。

2. エレベーター設置における課題と要望

(1) 安価で実現可能なエレベーター設置方法の検討

- ・ 島式ホームに対応した低コストのエレベーター設置手法を検討する必要がある、他市の駅を参考にするとよい（例：岡崎公園駅の事例）。
- ・ コンパクト設計のエレベーターやスロープ設置など、技術的な工夫が必要である。

(2) 補助金の活用

- ・ バリアフリー化のための補助金制度を活用し、設置費用の 1/2 を国から補助を受ける要件を満たしている駅である。
- ・ 鉄道事業者・地方自治体と連携し、補助金申請の枠組みを検討する必要がある。

(3) 資金調達の課題

- ・ エレベーター設置計画が進行中であるが、資金調達の不確実性がリスクとして残っている。地方自治体として市だけではなく、県にも補助を働きかけることも必要である。
- ・ 安定した資金調達の方法を模索し、計画の進行に支障がないような調整が必要である。
- ・ 補助として、長期的な計画とし、順次工事を進めることで年度をまたぐことが可能となる。その場合単年度の支出は抑えられる。ただし、価格変化によるリスクは注意が必要である。

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

瀬戸口駅周辺は、人口誘導区域としてのポテンシャルを持つ地域であり、**駅の利便性向上は地域の発展や経済活性化に直結**と考えられた。

これからの計画を進めるにあたり、以下の視点を重視する必要があった。

- ① 鉄道利用の利便性を基盤とした地域づくり
- ② 居住者および訪問者の滞留と流動性を高めるための公共施設や商業施設の整備
- ③ 持続可能なバリアフリー施策と財政計画の確立
- ④ 地域住民を含めた協議会の具体的な立ち上げ方法と参加者の選定を早急に進める
- ⑤ 資金調達の課題については、長期的な視点で単年度支出を抑える方法や、鉄道事業者や県との調整が必要

瀬戸口駅の エレベーター設置および北側改札口の新設は、単なる交通利便性の向上にとどまらず、地域全体の魅力向上に寄与する重要な施策であると考えられた。

引き続き、関係者との協議を進め、市民の理解を得られる計画となるよう協議していく必要があると感じた。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 ／ 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
7 年 1 月 30 日	山口駅	愛環	片道	高蔵寺駅	10.7	km	340	円		円
	高蔵寺駅	JR	片道	名古屋駅	24	km		円		円
	名古屋駅	新幹線	片道	東京駅	366	km	6,600	円	4,720	円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
							円			
備考欄										

11,660 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
7 年 1 月 30 日	東京駅	新幹線	片道	名古屋駅	366	km	6,600	円	4,720	円
	名古屋駅	JR	片道	高蔵寺駅	24	km		円		円
	高蔵寺駅	愛環	片道	山口駅	10.7	km	340	円		円
						km		円		円
						km		円		円
	宿泊先名称					TEL		宿泊料金		
							円			
備考欄										

小計 11,660 円

日付	出発駅	交通手段	片道 ／ 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
年 月 日						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
							円			
備考欄										

バック等による割引など

小計 0 円

880 円

宿泊費 合計

交通費 合計

0 円

23,320 円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)

22,440 円